

2023年度 教職課程

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況 (実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題 /根拠データ等	
<p>1-1教職課程教育の目的・目標の共有</p> <p>① 教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知する。</p> <p>② 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施する。</p> <p>③ 教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図る。</p>					
<p>1-2教職課程に関する組織的な工夫</p> <p>① 教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築する。</p> <p>② 教職課程の運営に関して全学組織(教職課程センター等)と学部(学科)の教職課程担当者として適切な役割分担を図る。</p> <p>③ 教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT教育環境の適切な利用に関しても可能となるようにする。</p> <p>④ 教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD(ファカルティ・ディベロップメント)やSD(スタッフ・ディベロップメント)の取り組みを展開する。</p> <p>⑤ 教職課程に関する情報公表を適切に行う。</p> <p>⑥ 全学組織(教職課程センター等)と学部(学科)教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能させる。</p>					
<p>2-1教育課程を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成</p> <p>① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受け入れの方針」等を踏まえて設定し、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施する。</p> <p>② 「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定する。</p> <p>③ 「卒業認定・学位授与の方針」等も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れる。</p> <p>④ 「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導を行う。</p>					

2023年度 教職課程

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p>	<p>D:計画を実行しその効果を測定する。</p>	<p>実施状況 (実施率)</p>	<p>C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。</p>		<p>A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる</p>
<p>2-2教職課程へのキャリア支援 ①学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握する。 ②学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行う。 ③教職に就くための各種情報を適切に提供する。 ④教員免許状取得件数教員就職率を高める工夫をする。 ⑤キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図る。</p>			<p>評価</p>	<p>評価の理由/課題/根拠データ等</p>	
<p>3-1教育課程カリキュラムの編成・実施 ①教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行う。 ②学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成する。 ③教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫する。 ④今日の学校におけるICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導を行う。 ⑤アクティブ・ラーニング(「主体的・対話的で深い学び」)やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成する。 ⑥教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示す。 ⑦教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行う。 ⑧「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かす。</p>					

2023年度 教職課程

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p>	<p>D:計画を実行しその効果を測定する。</p>	<p>実施状況 (実施率)</p>	<p>C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。</p>		<p>A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる</p>
<p>3-2実践的指導力養成と地域との連携 ① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定する。 ② 様々な体験活動(介護等体験、ボランティア、インターンシップ等)とその振り返りの機会を設ける。 ③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設ける。 ④ 大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図る。 ⑤ 教職課程センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図る。</p>			<p>評価</p>	<p>評価の理由/課題/根拠データ等</p>	